



Japan
Food
Research
Laboratories

試験報告書

第 208060427-001号

2008年(平成20年)07月08日

依頼者 セパレーターシステム工業株式会社

検体 バイオフィォナース 3

表題 殺菌効果試験

虫産産

2008年(平成20年)06月05日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番
彩都研究所 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目4番41号

殺菌効果試験

1 依頼者

セパレーターシステム工業株式会社

2 検 体

バイオフィオナス 3

3 試験目的

検体の *Streptococcus mutans* に対する殺菌効果試験を行う。

4 試験概要

検体に *Streptococcus mutans* の菌液を接種後(以下「試験液」という。), 室温で保存し、30秒及び10分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお、あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。また、培養後の生菌数測定平板を写真-1~5に示した。

なお、試験液をSCDLP培地で100倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 ml当たりの生菌数

試験菌	対 象	生菌数 (/ml)		
		開始時*	30秒後	10分後
<i>Streptococcus mutans</i>	検 体	6.2×10^5	3.2×10^3	<100
	対 照	6.2×10^5	5.7×10^5	5.4×10^5

<100 : 検出せず

対照 : 精製水

保存温度 : 室温

* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

6 試験方法

1) 試験菌

Streptococcus mutans IFO 13955

2) 菌数測定用培地及び培養条件

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混釈平板培養法，35 °C ± 1 °C，2日間

3) 菌液の調製

試験菌をSCD寒天培地[栄研化学株式会社]で35 °C ± 1 °C，18～24時間培養した後，生理食塩水に浮遊させ，菌数が約 10^7 /mlとなるように調製し，菌液とした。

4) 試験操作

検体10 mlに菌液0.1 mlを接種し，試験液とした。室温で保存し，30秒及び10分後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]で直ちに100倍に希釈した。この希釈液の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお，対照として，精製水を用いて同様に試験し，開始時についても生菌数の測定を行った。

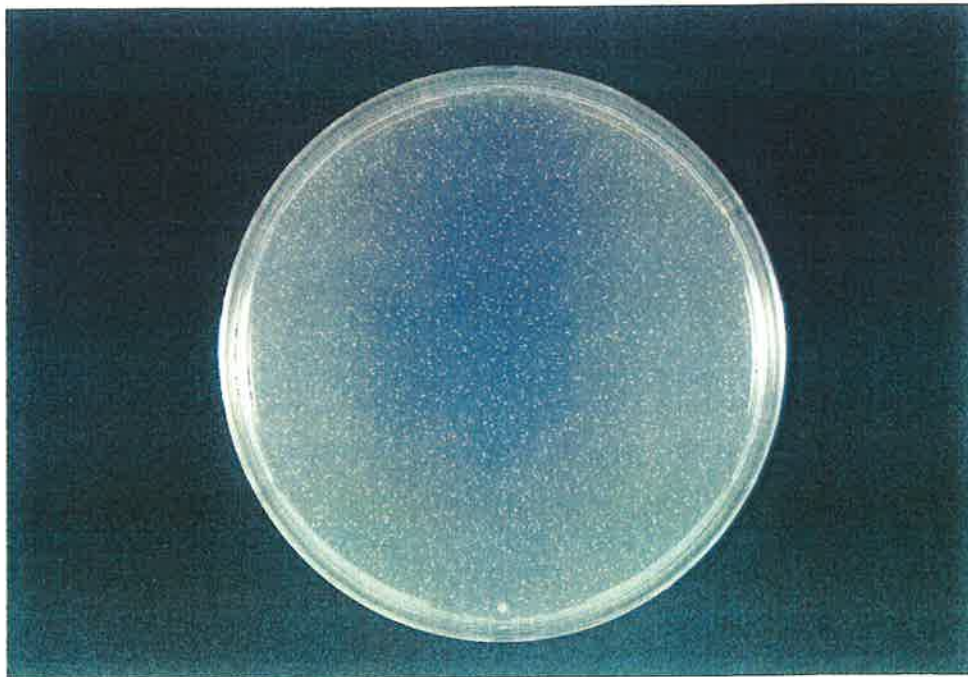


写真-1 *S. mutans* 開始時 対照
(試験液 0.01 ml)

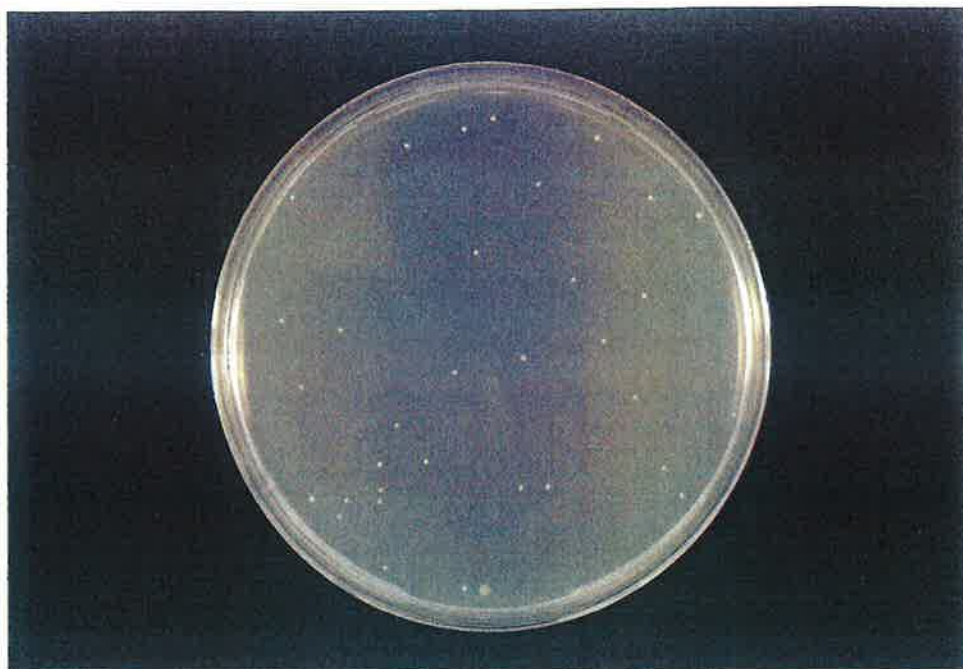


写真-2 *S. mutans* 30秒後 検体
(試験液 0.01 ml)

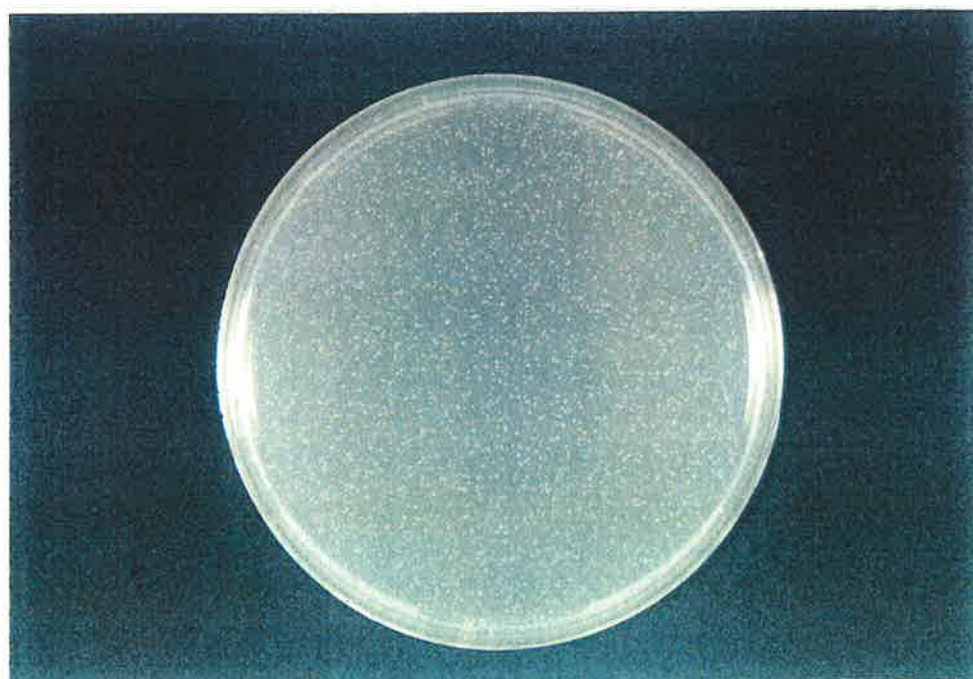


写真-3 *S. mutans* 30秒後 対照
(試験液 0.01 ml)

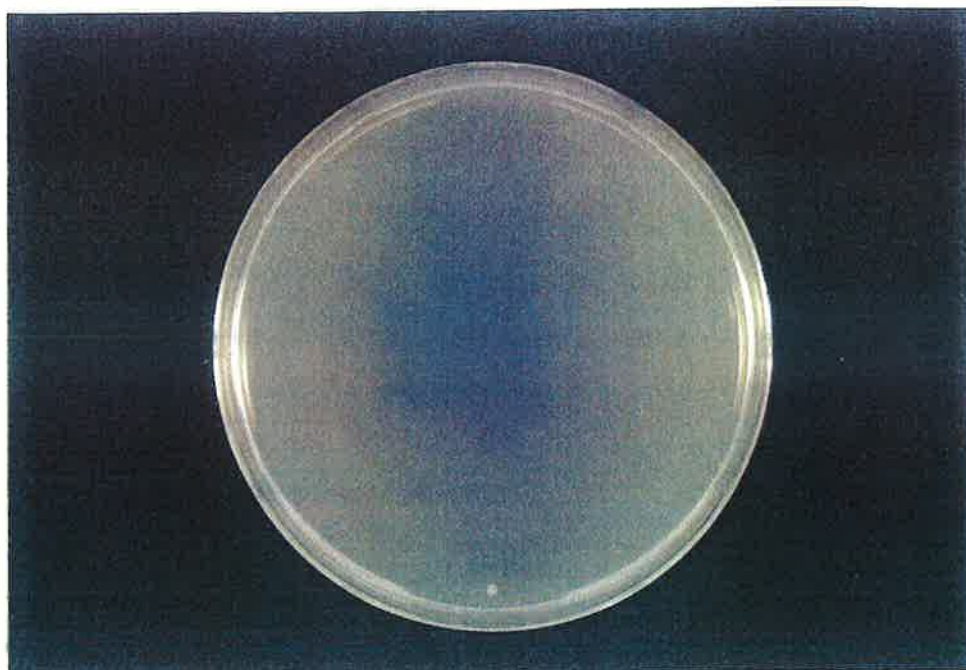


写真-4 *S. mutans* 10分後 検体
(試験液 0.01 ml)

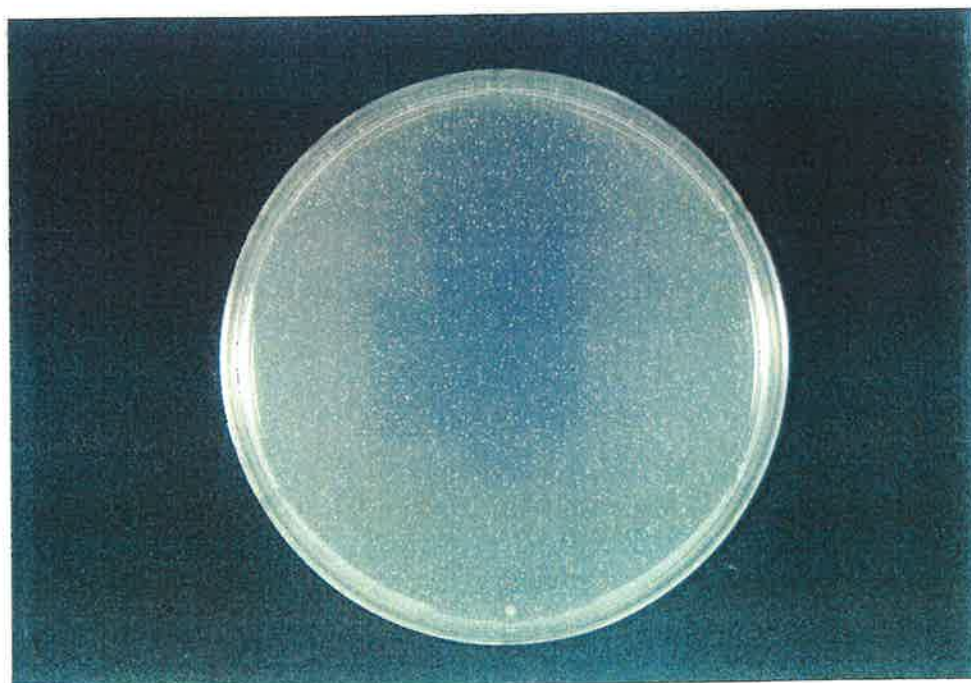


写真-5 *S. mutans* 10分後 対照
(試験液 0.01 ml)

以 上